

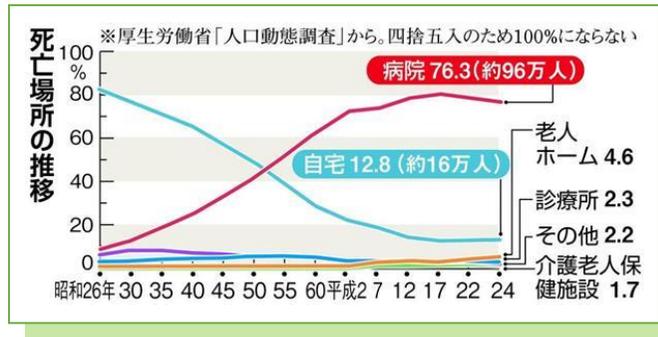
「家がいいね」 第137号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2015. 10. 3

斎場とコンビニばかり増えすぎる

伊勢市の方の川柳が新聞にあり一人暮らしに便利な社会は味気ないと解釈しました。下の図は過去60年の死亡場所の推移です。その8割が病院である傾向が固定しています。



「病院でサヨナラ言えぬが数増える」が私の駄句です。家から、便利・安全・安心・安上がりと外注に出すものばかりになった時勢ですが、人生の畳み方まで依頼しますか？ 普段の畳の上での最期の姿は、身近な人に残せる最上の文化だと思います。私は9月8日に民生委員さんの研修をお手伝いしました。家族以外の方が地域を支える実際を知り、新しい地縁を作る意欲も感じました。

名月や池をめぐりて夜もすがら

何か東の空が明るいと思ったら、まん丸い見事な月に気付きました。中秋の名月でした。翌日はさらに地球に近いスーパームーン。懐中電灯の要らない散歩を芭蕉さんの句のように続けたい夜でした。

左の写真は、鈴鹿の



長太(なご)の大楠の上に残る翌朝の月です。

早朝のランニングをされている神経内科医の真鈴川聡先生の撮影写真をいただきました。



樹齢千年の巨木、その場を動かずとも様々な風景を見てきたでしょうね。

暮らしの中で最期まで生きる

地域で看取るホームホスピスの役割が目に見えるようになってきました。11年前から宮崎市で、「かあさんの家」を継続している市原美穂さんの講演会です。11月29日(日) 13時~14時半、外宮前のシティプラザホールで、無料です。伊勢市の地域包括ケア推進課が主催ですので、詳しい情報は11月の市広報をご覧ください。



病から詩が生まれる(認知症の場合)

80歳の在宅医、大井玄先生が伊勢市に来られます。12月12日(土) 15時半~17時。日赤やまだホール、参加費500円。認知症だからこそ穏やかに過ごすヒントは著作「人間の往生」「痴呆老人」は何を見ているか(いずれも新潮新書)、「病から詩が生まれる」(朝日選書)から。事前申込制、チラシに詳報。



在宅医療推進フォーラム 四日市にて

在宅療養支援診療所が主になり、東海北陸の規模で毎年実施し、12月13日(日) 13時から四日市市文化会館で行います。チラシは近日配布。

クリニックからのお誘いとお誘い

10月は研修医の訪問同行があり、在宅医療の未来のため、ご協力をお願いします。

11月11日(水) 午後1時半から2時半まで、介護者の安心のために食事介助教室を、縁の家で無料開催します。詳細は別紙にてお渡しします。



食ベにくくなった初期ほど、先を見通した介助と食事の工夫が大切です。大事な時を忘れずに彼岸花がちゃんと咲き始めるのが不思議です。



自宅での人生を 最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ http://isezaitaku.com

↑バックナンバーはここで閲覧可